

家庭教育力の向上

子どもの健やかな育ちのために地域と連携したPTA活動

あま市立宝小学校PTA

1 はじめに

本校は、愛知県西部のあま市の中央に位置し、昭和47年に七宝小学校の分校から分離・独立して開校した。児童数は127名で、9つの学級（通常学級6、特別支援学級3）、PTA会員は96世帯の小規模校で、地域に根ざした温かい学校づくりを目指している。校区には、七宝焼の文化発信拠点である七宝焼アートヴィレッジや七宝焼の窯元があり、伝統工芸の体験や学習を通じて、地域の文化を理解し、大切にする取組を重ねている。また、戦国時代の名将・前田利家の正室「おまつの方」の生誕地であることから、おまつの方の歴史学習や地域文化の理解を深める教育活動に取り組み、子どもたちに地域の伝統や誇りを育む教育を学校、家庭、地域が連携して推進している。



【宝小学校校舎】

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

本校は、地域とのつながりが深く、学校・家庭・地域が連携して子どもたちを育てる環境がある。しかし、児童数の減少によって保護者の数も減少し、家庭環境や価値観の多様化によってPTA活動に参加する時間の確保が難しくなっている。コロナ禍を経て「子どもたちのために」という本質を大切に協議しながら持続可能な活動にするために、PTAの組織や活動を見直してきた。また、役員の負担を軽減するために役員だけでなく全会員から参加希望を募る活動を増やし活動に参加しやすいようにした。これらの取組や学校・家庭・地域が一層連携することで家庭の教育力の向上を図り、子どもの健やかな成長につなげたいと考えた。

(2) PTAの組織

本校のPTA役員は、会長、副会長、副会長兼家庭教育委員、書記、会計の5役員と各学年から1名ずつの学年常任委員と学年委員の17名で構成され、それぞれが生活委員会と研修委員会に所属することになっている。コロナ禍以前には23名の役員であったが、PTA組織を見直し活動の状況を見ながら徐々にスリム化してきた。また、学校運営協議会（コミュニティースクール）として、PTAと地域の連携を行ってお

り、PTAからは前年度会長を含め4名が所属し、地域の代表の方やスクールガード代表の方とともに子どもを育てる関係づくりをしている。

3 実践活動の概要

(1) 食と健康に関する活動

① 給食試食会(研修委員会)

コロナ禍で中止となっていた給食試食会を復活してほしいという声を受け、研修委員会を中心に企画運営をしている。以前は1年生の保護者を対象としていたが、全会員から希望を募った。試食会の前に、栄養教諭による食育講話の時間を設け、その後試食、児童たちの給食の様子を参観するようとした。センターで給食が作られる様子や、給食の意義、栄養についての講話を行った。その感想では、「日々の献立を再度見直して、子どもの成長に必要な栄養素を含んだ料理を作つてこうと思った」「給食には栄養を摂ること以外にも、感謝の気持ちを忘れずに食べること、マナーを守つて食べることなどたくさんの役割があることを知つた」「栄養だけでなく、マナーや食べ方なども気をつけたいと思う」「家で給食についての話をしたいと思った」などがあり、食への学びを深め、家庭での子どもとの話題の一つにすることで、親子で食に関する意識を高めることができた。



【栄養教諭による講話】

② 学校保健委員会への参加 (生活委員会)

第1回の学校保健委員会は、健康診断や歯科健診の結果をもとに、本校の児童の健康状況を教職員と生活委員に報告を行つた。本校の課題について知り、その後の意見交流では、活発に意見を出し合う姿がみられた。その中で、メディア利用について



【活発な意見交換の様子】

の課題が話題になつたため、学校保健委員会後に1週間でのメディアの利用について見直す機会を設け、取組を行つた。メディア利用の時間が長いほど、就寝時間が遅くなる傾向がみられ、また「メディアの時間を守つて使ってほしい」「画面に目を近づきすぎないように」「目がわるくならないように休憩してほしい」など親子でルールを決めて取り組むことができた。また、夏休みには、生活チェックシートに「ゲーム・パソコンを使用する時間を決めて、目標時間が守れたか」の項目を加えた。メディア利用について、PTAの活動がきっかけとなり、継続的な取組を行い親子でメディア

利用の意識を高めることができた。

(2) 教育環境整備の活動

① 校内除草

校内除草は、スクールガードの方や地域の方と保護者、児童が一緒になって学校の校庭の除草をする活動で、学校・家庭・地域が一体となって取り組んだ。地域の方が草刈り機で校庭の草を刈り、その後、通学団別にエリアを決めて保護者や地域の方とともに、刈り取った草を袋につめたり、草取りを



【校内除草の様子】

したりして協力して作業を行った。全会員半数の以上が参加する企画となり、多くの地域の方の参加もあって、本校のPTA活動の中で最も大きな取組となった。この活動を通して地域の中の学校の存在を感じ、家庭も地域も大切に思う心が子どもたちにも伝えられていくと感じた。

② 本の修繕・花壇の苗植え（生活委員会）

生活委員会では、本の修繕と花壇の苗植えを行っている。本の修繕では、子どもたちに本に親しんでほしいという願いから活動に取り組んだ。本のカバーリングの作業では、図書支援員の指導のもと、最初は緊張して作業に取り組んでいたが、徐々になれて沢山の本を短時間でカバーリングすることができた。また、花壇の苗植えでは全会員に参加を呼びかけ、250株の苗を花壇に植えることができた。教育環境整備に保護者が参加することで子どもたちにとって「自分たちの学校を大切にする心」を育むきっかけづくりができた。



【花壇の苗植えの様子】

(3) その他の活動

① PTA旗当番活動とスクールガード活動の連携

校区には片側2車線の交通量の非常に多い道路や抜け道となっている細い道路に、自転車、歩行者が通行する状況がある。市役所の校区内への移転によりさらに状況が悪化しているため、登下校の安全の確保が課題である。学校運営協議会でも、PTA、スクールガードで対応について協議した。PTAでは全会員の協力のもと、旗当番活動を



【登校時旗当番の様子】

「0の日」を中心に登校時に交差点や横断歩道で見守りを行っている。そしてPTAの活動に加えて、スクールガードの皆さんのが見守り活動によって支えられている。4月のスクールガード発足式では、会長から保護者代表として感謝の思いをスクールガードの方に伝えた。スクールガードの方々からは、「子どもたちの元気な挨拶がうれしい」と子どもたちに伝えた。このように学校・家庭・地域が子どもたちの安全の確保をする体制づくりを行った。地域の方が毎日の活動を通して「顔を覚えてもらって声をかけられたのがよかったです」と安全の確保とともに子どもとのつながりを楽しみにしている声もあった。元気よくスクールガードの方にあいさつする姿から、地域の力で安全の確保がされているとともに、地域とのつながりを実感している。

② PTA研修会「ポーセラーツ作り体験」(研修委員会)

研修委員会の企画で全会員に参加を募る研修会では、白磁の陶器転写シールをはり、それを焼き付ける磁器焼き付けのポーセラーツ作りに取り組んだ。通常は白磁の器を用いるが、特別な転写シールを用いてガラスのコップで作成した。

「なかなか体験することができないポーセラーツを体験することができとても楽しかった」「自分のためにゆっくり時間をとて工作することができないので来年も参加したい」という感想があった。作品作りを楽しみながら、参加者同士が気軽に語り合い、子育ての話を自然に共有することで家庭でのかかわり方を再認識する場となった。



【作品作りの様子】

③ スポーツ大会でのボランティア活動

スポーツ大会は、保護者のみならず、スクールガードや地域の方に観覧にきていただき地域の方も楽しみにしている行事となっている。5月に開催されたが、児童や地域の方の熱中症対策として、テントを設置した。そこで、PTA活動として、テントの撤収のボランティアを呼びかけたところ多くの会員の協力で、わずかな時間で多くのテントが片付けることができた。

4 おわりに

家庭の教育力の向上には家庭の中での子どもの関わりだけでなく、家庭と家庭が、家庭と地域がつながることでも高められる。研究を通してPTA会員のつながりを深め、家族とともに考える場を作ることで家庭の教育力の向上のきっかけになったことを実感できた。そして、地域とのつながりの中で安全が確保されたなど、つながりの大切さを再認識した。今後、「無理なく、今の時代に合ったPTA活動とは何か」考え、さらに学校・家庭・地域が連携して、子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと考える。